

社会に貢献する学部に向けて

応用生物科学部 学部長 西津 貴久



爽秋の候、各務同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会活動に対して格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

もう会報が届く季節になったかと驚かれた皆様もいらっしゃるかもしれません。今回は例年より2か月早い発行となっております。本年11月1日午前、大学本部主催のホームカミングデイが開催される予定で、同日午後には各務同窓会と協力して講演会を実施することになっております。この講演会はこれまで、現役の学生とご家族向けに農学・応用生物科学分野での最先端の研究活動を見ていただくことを目的に岐大祭期間中に実施してきたものです。ホームカミングデイで母校を久しぶりに訪れたOBの皆様にも我が学部の現状を見ていただくいい機会になればと、会報でその告知を行うべく例年より早く発行することとなりました。

さて、学部長を拝命してから2年目

各務同窓会報



岐阜大学

を迎えました。昨年度は20年ぶりの改組を翌年度に控えての準備業務がエグストラで加わりながら、1サイクルをどうにかこなしてまいりました。自らの力足らざるを自覚しつつ、画ることなく課題に向かい、学部教職員の皆様と同窓生の皆様のご支援、ご協力を賜りながら、引き続き学部運営にあたる所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年4月、2課程に代わって応用生命化学科、食農生命科学科、生物圏環境学科が発足しました。新3学科で166名の新生が入学し、共同獣医学科の32名を合わせて総勢198名が新たな学生生活の一步を踏み出しました。改組が正式に認可された昨年7月末から直近の推薦Ⅰの出願日まで3か月ほどしかなく、新学科のコンセプトを受験生に十分に浸透させられるか一抹の不安がありました。しかし蓋を開けてみると、新3学科では志願倍率が推薦Ⅰ・Ⅱ、前期日程、後期日程すべての入試

区分で前年度を上回る結果となり、杞憂に終わりました。新生が入学前に抱いていた学科イメージとの乖離がないか、個別面談等の手段で、新生が所属学科に対して持っているイメージの全貌把握に努めました。その結果からマッチングに関してはある程度うまくいったのではないかと感じています。引き続き新生に対してケアを続けていくとともに、令和8年度入試に向けたPR活動にも力を入れ、進学希望の学科に対するミスマッチを極力防いでいきたいと考えています。

学部長のタスクの一つに全国農学系学部長会議への出席があります。直近では6月2日・3日の両日、東京の一橋講堂で開催されました。その会議の冒頭、著名な経済学者N氏がメディアで公表してきた「日本の大学教育は社会の要請に無反応である」という言説の紹介がありました。N氏は、大学教育の応用分野は現実社会の変化に対応が必要であるが、農学部や工学部のような伝統的学部の既得権益が壁となつて大学教育組織が現実社会のニーズに対応し切れていない、と主張しています。中でも農学部について、日本国内における基幹的農業従事者数が総就業率中の2%、国内総生産に占める農業の比率は0.9%であるのに対して、例えば東京大学農学部の学生割合が8%を超えており、「変わることができない学

部」の代表として挙げています。各務同窓会の皆様には、これは極端な主張であると感じられることと思いますが、メディア露出の高い学者による発信は非常に大きなインパクトを世間に与えます。また農学分野に限らず、大学教育は様々な課題を抱えているのは皆様ご承知の通りです。国立大学協会は昨年6月、国からの運営費交付金の減額、円安、物価高騰、社会保険などの経費の上昇による各大学の財務状況は危機的になっており、「もう限界です」との声明を出しています。そして中央教育審議会が今年6月、世界的には環境問題、国際情勢の緊張化、AIの進展、国内的には急速な少子化、労働供給不足が進行中であり、今後の高等教育の目指すべき姿について答申を出しています。こうした社会の急速な変化に対応していくために本学部はどうあるべきなのか、常に検討していくことが必要になってきています。令和元年の各務同窓会報で杉山誠学部長(当時)が、「社会から期待され、社会に貢献する学部を目指して」と題した挨拶文を寄稿されていますが、改組元年にあたり、本学部構成員一同、「社会に貢献する学部に向けて」より一層の努力をしていく所存です。これからも同窓生の皆様から変わらぬご理解と温かいご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

会長あいさつ

各務同窓会会長

平工 孝義 (A大25)



皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また同窓会活動にご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

大学を訪れる機会が増えてきました。いつの間にか巨木に成長した応用生物科学部棟の前のメタセコイアの下で、学生たちが談笑しながら行きかう姿を見るたびに、50年前、自由気ままに好きなことをして過ごした学生時代が懐かしくよみがえってきます。時代が変わっても無限の可能性を秘めた学生のいきいきした姿は昔と変わっていないようです。

今年度は会報の発行を2ヶ月ほど早めて皆さんにお届けすることになりました。その理由は、11月1日に大学で開催されるホームカミングデイを会報でお知らせして、一人でも多くの皆さんに参加していただきたいという思いからです。午前中は大学全体の行事、午後は応用生物科学部が主体となつて先生方の講演や同窓会OBのスピーチが企画されています。その後、同窓会員や大学の教職員、現役学生の皆さんと懇親を深めるための交流会が行われる予定です。当日は、岐大祭も行われており、バザーやサークルに参加することができますので、この機会にぜひ母校を訪れていただきたいと思います。

各務同窓会では入学する学生の皆さんに同窓会への加入を呼びかけていますが、今年度の同窓会加入率は6月の時点で54%と低い状況にあります。昨年、入学した2年生の現在の加入率も54%で、加入率は約半分の状況になっていました。他の学部同窓会も加入率が減少傾向にあることから、同窓会連合会ではスマホやコンビ二で振り込みができるような新たなシステムの導入を提案しており、今後、加入率を増やすための一手法として導入を検討していくこととしています。

6月7日に開催されました代表者委員会には北は北海道、南は高知県から合わせて21支部の参加があり、交流会は大いに盛り上がり、各支部の活力を感じた次第です。現在、各地域で50支部が活動していますが、令和に入って17支部が解散または休眠となっています。この会報にも休止する支部

の情報が掲載されています。その原因として支部会員の高齢化と新入会員の減少により会員数が減少し存続できない状況に陥ることが上げられます。同窓会への加入率が減少していることも支部会員の減少に影響していると思われます。私の所属している岐阜支部においては、加入者を増やすためには支部の魅力を高めることが重要であると考え、毎年開催される総会では会員が取り組んでいる仕事や趣味の発表をしたり、支部内に興味のサークルを作ったりしています。このように支部の活性化に向けた取り組みを各支部に広げたいと考えていますので、良いアイデアなどありましたらお寄せいただきたいと思います。また、支部に加入しておられない方には、ぜひ、地域にある支部に加入していただき、同窓生の間で交流を深めていただけると幸いです。

うれしい話題を一つ。各学部の同窓会で結成している岐阜大学同窓会連合会では、毎年、社会に大きく貢献した同窓生に同窓会連合会長賞を授与しています。昨年度、各務同窓会からアース・バイオケミカル株式会社代表取締役社長を務められた亀井正治様を推薦し、受賞が決まりました。心からお祝い申し上げます。

幹事長あいさつ

幹事長 柳瀬 笑子



応用生物科学部
命化学科
の柳瀬と申します。

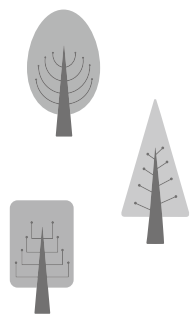
今年度より2年間、幹事長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本年4月より、応用生物科学部は従来の2課程1学科から4学科体制へと再編されました。入試倍率も上昇し、新たな学生を迎えることができました。彼らが将来、社会で活躍し、また同窓会にも新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。

一方で、現役学生および卒業生の同窓会への入会者数減少が課題となっています。これは、入会システムの変更やコロナ禍の影響だけではなく、社会全体の価値観の変化も背景にあるのではないかと

感じています。インターネットで多くの情報が手に入る現代において、「リアルな場での人とのつながり」にはどのような意味があるのでしょうか。自分で検索できる情報は、どうしても自身の興味や視点に偏りがちです。しかし、リアルなつながりは、思いがけない視点や価値観に触れる貴重な機会となり、時にはその後の人生に大きな影響を与えることもあります。同窓会の存在意義は、まさにそこにあるのではないのでしょうか。今後は、リアルな場としての同窓会をより魅力的にするための新たな取り組みを少しずつ進めていけたらと思っております。ぜひ、皆様からのご意見やアイデアをお寄せいただければ幸いです。

今年度も大学祭に合わせてホームカミングデーを企画しております。講演や茶話会などを予定しておりますので、ぜひご参加いただき、交流を深めていただければと思います。今後とも、各務同窓会へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和7年度 各務同窓会代表委員会のご報告

令和7年6月7日(土)午前11時30分より、ホテルリソル岐阜6階「香月 東の間」において、令和7年度各務同窓会代表委員会が開催されました。当日は、中部地方を中心に、北は北海道、南は広島・高知支部まで、全国21支部よりご出席を賜りましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

代表委員会は平工孝義会長のご挨拶に始まり、幹事長および幹事(監事を含む)、来賓の紹介が行われました。続いて、ご来賓としてご出席いただいた杉山誠副学長より、大学の現況と将来ビジョンについてご報告がありました。国公立大学を取り巻く厳しい状況の中、岐阜大学が目指す発展的な大学改革とその取り組みについて、短い時間ではありましたが、丁寧に説明いただきました。その後、柳瀬笑子幹事長の挨拶に続き、岐阜県職各務同窓会支部の足立葉子様が議長に選出され、議事が進行されました。令和6年度事業・決算報告および会計報告、令和7年度事業計画(案)、令和7年度予算(案)、令和7年度岐阜大学各務同窓会役員(案)、各務同窓会会則改正の5件の議案を検討し、すべての議案が挙手をもって無事承認されました。

その他に、寄付金決算報告、不明支部について、ホームカミングデイについて、同窓会報について報告がありました。特に、不明支部については、コロナ禍以降、近年、活動休止や廃部になる支部が増加しつつあり、今後の支部の在り方や活動について継続的な議論が必要との考えが示されました。また、令和7年11月1日の午後に、大学祭と併せて行われるホームカミングデイにおいて企画されている講演会では、応用生物科学部教員に加え、岐阜県西濃県事務所長 足立葉子様(農学S63年卒)、広島市安佐動物公園 獣医師・動物診療係長 野田亜矢子様(獣医H10年卒)に講演をいただく予定であることが報告されました。



続いて、名誉会長である西津貴久応用生物科学部長よりご挨拶をいただき、新たに始まった学科体制についてご説明がありました。特に今年度の入試では、改組された学科において志願倍率が上昇し、順調な滑り出しとなったことが報告されました。代表委員の皆様のご協力のおかげをもちまして、委員会は円滑に進行し、無事閉会することができましたことを、心より感謝申し上げます。

代表者委員会の終了後、同会場にて交流会が開催されました。柳瀬幹事長の挨拶に続き、来賓の杉山副学長のご発声により乾杯が行われ、和やかな雰囲気のもと交流の輪が広がりました。各地からお持ちいただいた地酒などを酌み交わしながら、旧交を温めるひとときとなりました。交流会の後半では、学生時代を懐かしみつつ、岐阜大学のさらなる発展を祈念して、参加者全員で岐阜大学愛唱歌「我等多望の春にして」を合唱しました。最後に、北海道支部長・森勢依二様より閉会のご挨拶をいただき、名残を惜しまれつつ会は盛会のうちに幕を閉じました。遠方よりご出席くださった皆様をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。今後とも、各務同窓会の活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、同窓会事務局へのご質問・ご連絡等がございましたら、TEL:058-293-3411、E-mail: ob-abs@t.gifu-u.ac.jpまでお気軽にお寄せください。



令和7年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長: 西 津 貴 久
 会 長: 平 工 孝 義 (A大25)
 副 会 長: 箕 輪 光 顕 (A大20)
 荻 果 雅 俊 (F大31)
 河 野 宏 行 (C大28)
 小 澤 明 広 (V大30)
 熊 崎 政 之 (E大30)
 川 島 光 夫 (P大7)

相 談 役: 杉 山 幹 夫 (M1)
 中 村 孝 雄 (N大7)
 柵 木 利 昭 (V大16)

令和7年度幹事長、幹事及び監事

幹 事 長: 柳 瀬 笑 子 (応用生命化学科)

幹 事: (庶務・幹事長代理)
 伊 藤 健 吾 (生物圏環境学科)
 (事 業)
 酒 井 洋 樹 (共同獣医学科)
 (会 計)
 山 根 京 子 (食農生命科学科)

監 事: 高 島 康 弘 (共同獣医学科)
 日 巻 武 裕 (食農生命科学科)

令和6年度支部総会開催状況

支部名	期 日	出席者
愛知県高等学校教員	6. 6. 15	山田 邦夫
岐阜県高等学校	6. 6. 22	嶋津 光鑑・二宮 茂
石 川 県	6. 7. 6	嶋津 光鑑
岐 阜 県	6. 7. 7	日巻 武裕
愛 知 県 各 務 会	6. 5. 18	西村 真一
中 濃 県	6. 11. 23	山田 邦夫

支部名	期 日	出席者
岐阜県職各務同窓会	7. 2. 1	西津 貴久、山田 邦夫、平工 孝義、嶋津 光鑑
岐 阜 市 役 所	7. 2. 5	柳瀬 笑子
P 科	6. 11. 9	二宮 茂
岐 阜 大 学	7. 2. 28	平工 孝義、北川 精一、川島 光夫、箕輪 光顕

各務同窓会報

令和6年度各務同窓会決算報告

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会 費	5,224,000	3,700,600	△ 1,523,400
入会金＋終身会費	5,124,000	3,630,000	△ 1,494,000
卒業生分(年会費＋終身会費)	100,000	70,600	△ 29,400
2. 雑 収 入	600,000	585,000	△ 15,000
3. 基本金特別会計より組入	54,012,806	54,012,806	0
4. 利 子	11,846	4,368	△ 7,478
当期歳入合計 (A)	59,848,652	58,302,774	△ 1,545,878
前年度繰越収支差額	2,495,546	2,495,546	0
歳入合計 (B)	62,344,198	60,798,320	△ 1,545,878

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事 務 費	1,899,500	1,957,607	58,107
消耗品費	10,000	2,510	△ 7,490
人件費	1,700,000	1,755,000	55,000
通信費	60,000	69,297	9,297
旅費	26,000	24,000	△ 2,000
終身会費返金	100,000	100,000	0
雑費	3,500	6,800	3,300
2. 会 議 費	903,000	544,456	△ 358,544
代表委員会費	300,000	130,500	△ 169,500
代表委員会旅費	600,000	411,930	△ 188,070
役員会費	3,000	2,026	△ 974
3. 事 業 費	2,546,900	2,627,045	80,145
会報等印刷費	739,200	749,343	10,143
会報郵送費	897,600	927,012	29,412
会報発送雑費	870,100	914,836	44,736
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	30,000	25,854	△ 4,146
4. 名簿関係費	2,977,500	2,700,000	△ 277,500
名簿発行費	2,970,000	2,700,000	△ 270,000
名簿発送費	7,500	0	△ 7,500
5. 慶 弔 費	50,000	20,350	△ 29,650
6. 支部総会派遣費	500,000	180,220	△ 319,780
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	0	0	0
8. 予 備 費	50,000	62,900	12,900
当期歳出合計 (C)	8,926,900	8,092,578	△ 834,322
当期収支差額 (A)－(C)	50,921,752	50,210,196	△ 711,556
次期繰越収支差額 (B)－(C)	53,417,298	52,705,742	△ 711,556

2. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 広告掲載料	0	0	0
2. 会 費	0	0	0
3. 利 子	784	1,813	1,029
当期歳入合計 (A)	784	1,813	1,029
前年度繰越収支差額	3,920,129	3,920,129	0
歳入合計 (B)	3,920,913	3,921,942	1,029

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事 務 費	0	0	0
2. 会 議 費	0	0	0
3. 旅 費	0	0	0
4. 事 業 費	0	0	0
5. 人 件 費	0	0	0
6. 同窓会活性化事業助成金	0	0	0
7. 雑 費	0	0	0
当期歳出合計 (C)	0	0	0
当期収支差額 (A)－(C)	784	1,813	1,029
次期繰越収支差額 (B)－(C)	3,920,913	3,921,942	1,029

令和7年度各務同窓会予算 (案)

収支予算書 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 会 費	4,726,000	5,224,000	△ 498,000
入会金＋終身会費	4,626,000	5,124,000	△ 498,000
卒業生分(年会費＋終身会費)	100,000	100,000	0
2. 雑 収 入	600,000	600,000	0
3. 基本金特別会計組入	0	54,012,806	△ 54,012,806
4. 利 子	70,000	11,846	58,154
当期歳入合計 (A)	5,396,000	59,848,652	△ 54,452,652
前年度繰越額	52,705,742	2,495,546	50,210,196
歳入合計 (B)	58,101,742	62,344,198	△ 4,242,456

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 事 務 費	2,068,000	1,899,500	168,500
消耗品費	10,000	10,000	0
人件費	1,800,000	1,700,000	100,000
通信費	130,000	60,000	70,000
日当	23,000	26,000	△ 3,000
終身会費返金	100,000	100,000	0
雑費	5,000	3,500	1,500
2. 会 議 費	903,000	903,000	0
代表委員会費	300,000	300,000	0
代表委員会旅費	600,000	600,000	0
役員会費	3,000	3,000	0
3. 事 業 費	2,643,760	2,546,900	96,860
会報等印刷費	837,760	739,200	98,560
会報郵送費	1,029,600	897,600	132,000
会報発送雑費	686,400	870,100	△ 183,700
ホームカミングデイ諸費	50,000	0	50,000
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	30,000	30,000	0
4. 名簿関係費	6,000	2,977,500	△ 2,971,500
名簿発行費	0	2,970,000	△ 2,970,000
名簿発送費	6,000	7,500	△ 1,500
5. 慶 弔 費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	500,000	500,000	0
7. その他雑費	50,000	50,000	0
当期歳出合計 (C)	6,220,760	8,926,900	△ 2,706,140
当期収支差額 (A)－(C)	△ 824,760	50,921,752	△ 51,746,512
次期繰越額 (B)－(C)	51,880,982	53,417,298	△ 1,536,316

2. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 利 子	6,500	784	5,716
当期歳入合計 (A)	6,500	784	5,716
前年度繰越額	3,921,942	3,920,129	1,813
歳入合計 (B)	3,928,442	3,920,913	7,529

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 同窓会活性化事業助成金	0	0	0
2. 雑 費	0	0	0
当期歳出合計 (C)	0	0	0
当期収支差額 (A)－(C)	6,500	784	5,716
次期繰越額 (B)－(C)	3,928,442	3,920,913	7,529

学園だより

課程等の近況

❖ 応用生命科学課程

同窓会生の皆様には、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

本年度も西津貴久教授が学部長として、また柳瀬笑子教授が副学部長として学部の運営を担われます。本学部は今年4月に学部改組が行われ、これまでの2課程を生命・食・環境を柱とする3学科（応用生命化学科、食農生命科学科、生物圏環境学科）に再編し、共同獣医学科を加えて4学科体制となりました。応用生命科学課程の教員は、応用生命化学科と食農生命科学科に分かれて所属することになりました。応用生命化学科の学科長として中

川寅教授が就任されました。一方、本課程は上野が課程長を務め、分子生命科学コース長の海老原章郎教授、食品生命科学コース長の矢部富雄教授の3名で運営を進めて参ります。引き続き、皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

教員の動向としましては、本年3月に、長年、大学あるいは学部にて教育、研究、管理運営に力を注いでいただきました石田秀治教授（生理活性物質学）が定年退職されました。一方、新任教員として岐阜医療科学大学より小縣綾氏（有機合成化学）を准教授としてお迎えしました。小縣先生の今後の活発な教育研究活動を期待し

ているところです。

慶事としましては、西津貴久教授が日本農薬工学会賞を、藤田盛久教授（糖鎖生命コア研究所）が日本生化学会JJB論文賞を受賞されました。栄誉ある賞のご受賞を心よりお祝い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

（上野義仁）



❖ 生産環境科学課程

皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

2025年は環境生態科学コースの川窪伸光教授（多様性保全学）が3月をもって定

年退職されました。ユニークな講義とさまざまな疑問に向き合う姿勢に生産環境科学課程の学生・教員一同いつも刺激をいただきました。ありがとうございます。

3月の学位記授与式では、西脇那月（学部長表彰）、伊藤南（研究課長表彰）、野中美優（同窓会長表彰）、藤原早紀（同窓会長表彰）の各氏が学業優秀者として表彰されました。卒業生、修了生のみならず、なさまのご活躍を祈念いたします。

4月25日に梶川千賀子元教授がご逝去されました。学生への丁寧な指導と周囲への温かい心配りは私たち生環教員のお手本でした。先生のご冥福をお祈りします。ありがとうございます。

新学科が誕生し、課程は近いうちにその役割を終えますが、わが課程は最後まで全力投球で教育・研究に取り組みます。引き続き同窓会のみな

さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（松井 勤）



❖ 共同獣医学科

各務同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年に引き続き、本年も学科長を拝命致しました。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

共同獣医学科の現況をお知らせ致します。今年度は70名〔岐阜大学32名（男性14名、女性18名）、鳥取大学38名（男性15名、女性23名）〕の新入生を迎えました。岐阜大学入学者の出身地は愛知県10名、岐阜県3名であり、例年通り

各務同窓会報

東海地方からの入学者が多くなっています。第76回獣医師国家試験は、現役受験生32名のうち30名が合格(93.8%)しました。鳥取大学では35名のうち33名が合格(94.3%)しております。全国17大学の新卒者の合格率は83.8%(877/1,047名)で、鳥取大学の合格率は全国第3位、岐阜大学は4位という結果になりました。

教員人事では、令和7年3月31日付けで、血栓止血学研究室の鬼頭克也先生が定年のため退職されました。令和7年4月1日付けで、獣医寄生虫病学研究室准教授の高島康弘先生が教授に、病態解析・診断学研究室助教の村上麻美先生が准教授にそれぞれ昇任しました。

共同獣医学科では、国際通用性・社会性豊かな獣医師養成を目指して、教育研究環境のさらなる改善充実を目指して参ります。末筆ながら同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

(共同獣医学科長 前田貞俊)

◆◆◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、研究科では係員の市原、水島両氏のご退職になり、松岡由佳氏、吉田由梨氏を後任として迎えております。また、光永徹特任教授はJ-I-C Aに請われてスリランカに赴任されることになりました。他のメンバーに変わりはありません。構成員の先生方のご指導により昨年度は26名に学位を授与することが出来ました。末筆になりますが、同窓会会員諸氏のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(平松 研)

◆◆◆共同獣医研究科・連合獣医研究科

共同獣医研究科は平成31年4月に開設されましたが、これまでに12名が修了し博士号を取得しています。現在、34名の大学院生が在籍し、このうち4名は国費留学生、15名は社会人学生です。鳥取大学との共同大学院ですので、両大学の教員が協力しながら学生の指導をしています。一方、連合獣医研究科につきましては、現在2名の学生が所属しており、学位論文の提出を目指している状況にあります。

(志水泰武)

◆◆◆附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

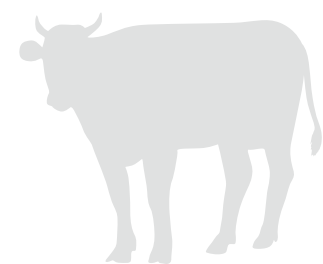
このたびセンターでは、柳戸農場に本学部を卒業した澤田佳奈さんを技術職員として迎えました。一方、美濃加茂農場では、飛騨牛繁殖研修事業に大きく貢献された金竹克広さんおよび技術職員の田口真之さんが退職されました。飼料や農業資材の高騰により

農場経営は依然として厳しい状況にあります。演習林の仲間とともに学部と連携し、教育・研究への貢献に努めております。

(大場伸也)

◆◆◆動物病院

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年度も渡邊一弘が動物病院長(二期目・最終年度)を務めております。さて、このたび、令和6年度の本学動物病院の収入が7億円を超えたことをご報告いたします。この額は、令和5年



度の全国17獣医系大学における最高収入額を上回り、本院が全国1位となる可能性もございます。この成果を励みに、今後も獣医療の発展に努めてまいりますので、引き続き動物病院の運営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(渡邊一弘)

◆野生動物管理学 研究センター

附属野生動物管理学研究センターは、岐阜県野生動物管理推進センターとの連携のもと、野生動物管理に関する研究を展開しながら、正しい情報発信や専門家の育成などを実施しています。具体的な活動例を挙げると、最近、本学部が東京農工大学を含む3大学との教育連携協定を締結し、「野生動物管理教育モデル・コア・カリキュラム」に基づ

く専門家庭教育に参画したことを受け、本センターは各大学の学生に高い専門性に基づく実践的な教育を提供しています。今後も様々な活動を通じて社会に貢献していく所存です。

(伊藤直人)

◆共同獣医学教育開発 推進センター

附属共同獣医学教育開発推進センターは、本学部共同獣医学科が鳥取大学農学部と共同で実施する獣医学教育の有効かつ効率的な運用を支援するとともに、教育方法の改善・開発などに関する様々な活動を行っています。今年4月、共同獣医学科が2013年に設置されて12年が経過しました。そんな今、社会情勢や教育環境の変化に対応した教育体制の整備が求められています。本年度は、鳥取大学側と

調整をしながら、共同獣医学科設置後2回目となるカリキュラム改正に向けた準備を進めています。

(伊藤直人)



◆家畜衛生地域連携 教育研究センター

(GeFAH)

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

GeFAHは、2015年4月の設置から10年の節目を迎

えました。これまで、岐阜県家畜保健衛生所・保健環境研究所、名古屋市食肉衛生検査所、NOSAI岐阜等と連携した講義や実習を通じ、実務者教育を充実しました。また、岐阜フイールド科学教育研究センター(FSC)と協力して岐阜市立女子短期大学との教育連携に取り組んでいます。全国8大学の家畜衛生関連施設とコンソーシアムで、昨年度から家畜伝染病の早期警鐘を鳴らす研究に取り組んでいます。また、県内外の養蜂関係者の協力のもとミツバチに関する調査研究が始まりました。今後ともGeFAHの運営にご協力賜りますようお願い申し上げます。

(浅井鉄夫)



GeFAH
Education and Research Center
for Food Animal Health,
Gifu University



GeFAH
Education and Research Center
for Food Animal Health,
Gifu University

GeFAHの2種類のロゴマーク

令和7年度から応用生物科学部が生まれ変わりました

生物圈環境学科

生物が棲む環境を改善し、豊かな生態系サービスにより
社会の多様なニーズに対応

生物圏環境学科は、生物多様性に支えられた生態系サービスの利活用を通じて、持続可能な社会を実現することをめざす学科です。生物と環境に関する科学、とりわけ動植物・生態系・環境基盤整備に関する基礎的・実践的の科学を基盤とし、地球、地域における水・物質循環や生物環境・生態系の科学的理解、動物の生息域内・域外保全をはじめとする生物の多様性保全と生態系サービスの持続的な利活用技術、そして持続可能な社会実現に貢献する知識・技術を学びます。



共同獣医学科

人と動物との共生を目指し、
動物の健康だけでなく、あらゆる命の専門家を養成

共同獣医学学科は動物の病気の診断、治療および予防について学び、牛、豚、鶏などの産業動物や犬、猫などの伴侶動物の健康を保つための専門家を養成する学科です。鳥取大学農学部との共同授業により動物の病気の発生原因、診断および治療に関する知識や技術の習得に加え、両大学での合宿型授業による体験学習、動物倫理やプレゼンテーション能力を養う少人数での基盤教育、両大学を結ぶ遠隔講義システムによる授業など、発展的な教育を用意しています。



新しい3つの学科へ

※学科内コースは設けない

応用生命化学科

食農生命科学科

生物圈環境學科

動物科学
プログラム

学科横断
自由選択
履修

共同獣医学科

変更無し

応用生物科学部

最先端の化学とバイオテクノロジーを融合し、
生命化学のチカラで未来を創造

応用生命化学科は「化学」と「バイオ」を融合させることで未来社会の創造と持続可能な社会システムへの転換をめざす学科です。自然科学の基盤となる基礎的教養と科学リテラシーおよび高い倫理観を身につけた上で、化学・生物学・物理学・生命情報科学を基盤に、生命の基本原理の解明および生物がもつ多彩な機能や生命現象の理解と利用に役立つ、生体分子から生物個体までを対象とする応用化学・応用生物学および高度な化学技術・バイオテクノロジーを学びます。



応用生命化学科

科学のチカラで環境にやさしく健康的な食料を生産・供給するシステムを実現

食農生命科学科は農学と食科学が融合して誕生した新しい学科です。地球環境を守りつつ、増加する世界人口を養うためには、食料の生産から加工、流通、消費に至る一連の食料システム全体を持続可能な形に転換していかねばなりません。この学科では、生命科学とデータサイエンスを共通の基盤とした農学と食科学の専門的な教育と最先端の研究を通して、環境と健康に配慮した技術やイノベーションを追求し、持続可能な食料システムの実現に貢献できる人材を養成します。



食農生命科学科

2課程(5コース)+1学科
から4学科制へ

応用生命科学課程

分子生命科学コース

食品生命科学コース

生産環境科学課程

応用植物科学コース

応用動物科学コース

環境生態科学コース

共同獣医学科

岐阜大学
×
鳥取大学

教員の異動

定年退職

R7・3・31
応用生命科学科
准教授

石田 秀治

R7・3・31
生産環境科学課程
准教授

川窪 伸光

R7・3・31
共同獣医学科
准教授

鬼頭 克也

昇任

R7・4・1
応用生命科学科
教授

小林 佑理子

生産環境科学課程
応用植物科学
准教授からR7・4・1
生物圏環境学科
教授

伊藤 健吾

生産環境科学課程
環境生態科学
准教授から

R7・4・1

共同獣医学科
獣医寄生虫病学
教授

高島 康弘

共同獣医学科
獣医寄生虫病学
准教授から

R7・4・1

応用生命科学科
准教授

大塚 剛司

生産環境科学課程
応用動物科学
助教から

R7・4・1

食農生命科学科
准教授

落合 正樹

生産環境科学課程
応用植物科学
助教から

R7・4・1

共同獣医学科
病態解析・診断学
准教授

村上 麻美

共同獣医学科
病態解析・診断学
助教から

採用

R6・4・1

生産環境科学課程

玉木 一郎

R7・4・1

応用生命科学科

小縣 綾

R7・4・1

生物圏環境学科

日室 千尋

新任あいわく

玉木 一郎

2024年

4月1日より

応用生物科学

部 准教授に



着任しました玉木一郎です。フィールドセンターで演習林の担当をしています。私は森林や樹木、木材、そしてそれらに関わる人達が大好きで、専門は森林生態遺伝学です。樹木が野外でどのように暮らしているのか？どのように世代を重ねて進化してきたのか？人とのような関わりがあるのか？ということについて研究しています。私は名古屋大学で学位取得後、前任の森林・林業・木材関連産業の専門学校である岐阜県立森林文化アカデミーで約15年間、森林技術者の教育や森林研究に携わってきました。岐阜県は森林率が全国2位の81%で、海拔ゼロmから、3,000m超の高山までの多様な植生帯を有する森林県です。岐阜大学の演習林はその半分がヒノキやミズナラの天然林で、非常に貴重な地域の天然植生が維持されています。このように森林が身近で豊富な岐阜県において、森林の教育・研究に携わることができることを大変光榮に思います。応用生物科学部、そして位山演習林の今後の発展に貢献できよう頑張っていきたいと思しますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日室 千尋

はいさいぐすーちゅーうがなびら。

4月1日より



小縣 綾
このたび、応用生物科学部
応用生命科学
科に着任いたし
ました小縣綾と申します。長く学生
時代を過ごした岐阜大学に、今度は
教員として戻ることができ、大変光榮
に思っております。研究分野は、学生
時代に取り組んでいた核酸有機化学
を出発点とし、現在は分子イメージジ
ング、特に神経変性疾患の病態解明に
向けたPETイメージング製剤の開
発を中心に取り組んでおります。今後
は、教育と研究の両面から岐阜大学
および応用生物科学部の発展に少し
でも貢献できるよう励むとともに、学
生たちが自らの可能性を伸ばせるよ
う、教員として支えていきたいと思
います。未熟な点も多々ございますが、
諸先輩方のご指導を賜りながら精進
してまいります。今後ともどうぞよろ
しくお願い申し上げます。



り応用生物科学部生物圏環境学科
昆虫生態学研究室に准教授として着
任いたしました日室千尋（ひむろち
ひろ）と申します。千尋という名前か
ら、可愛らしい女性を想像されるか
もしれませんが、写真にございますよ
う、ゴリゴリのおじさんです。
昆虫の繁殖行動に関する研究が
専門で、3月まで沖縄県病害虫防除
技術センターで不妊虫放飼法という
害虫管理に関する研究をしてきまし
た。不妊虫放飼法とは、対象となる害
虫を大量に生産し、放射線物質など
を用いて不妊化し、野生に大量に放飼
することで、野生虫同士の交尾を阻
害し、やがて野生虫は根絶に至るとい
う方法です。環境に優しい害虫管理
法として世界で注目を浴びています。
写真は、600年の伝統を誇る沖縄
の祭り「那覇ハーリー」に地区代表と
して出たときのものです。県民シヨー
に私が映っていました。まるで、沖縄
県民のように。神戸つ子なんです
が、ゆたしくうにげーさびら。

【旧教員・教員の受賞】

堀 内 孝 次	名誉教授 (旧教員)	瑞宝中綬章	令和6年11月3日
西 津 貴 久	教授	FOOMA JAPAN 2025 AP賞	令和7年6月12日
今 泉 鉄 平	准教授	(来場者評価部門)	
八代田 真 人	教授	日本草地学会賞 (斉藤賞)	令和7年3月18日

退職者記念事業の報告

石田秀治教授

退職記念事業報告

石田 秀 治 教授

応用生命科学課程分子生命科学コースの石田秀治教授は、令和7年3月31日をもって定年退職されました。

石田先生は、昭和63年4月に本学農学部農芸化学科助手として着任されて以来、講師、助教授を経て、平成16年4月に教授へと昇任され、37年間にわたり本学の教育と研究に尽力されました。

石田先生の退職記念事業として、令和7年2月21日(金)午後2時半より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて、「生理活性複合糖質の化学と生物学―学父、学祖父、学曾祖父を辿る―」と題する最終講義を執り行いました。当日は教職員、在校生、卒業生をはじめ、多くの関係者の方々が参加くださり、盛大な最終講義となりました。また、講義後の午後4時より第一会議室にて

茶話会が催されました。ご参加いただきました皆様方には心より御礼申し上げます。

石田先生は、現在、招聘教員として本学に残され、主に学部改組前の応用生命科学課程在学生の教育サポート役(良き相談役)を務めておられます。

最後になりましたが、今後の先生の益々のご活躍とご健勝をお祈りして、退職記念事業報告とさせていただきます。(今村彰宏)

退職者記念事業終了の報告
川窪伸光教授

川 窪 伸 光 教授

生産環境科学課程環境生態科学コースの川窪伸光教授は、令和7年3月31日をもって定年退職されました。川窪先生は、岐阜大学に平成8年に着任された後、29年間にわたって本学の教育研究に尽力されまし

た。大変お疲れ様でした。

退職者記念事業として、令和7年3月22日午後1時半から、応用生物科学部101多目的ホールにて、「自然界の美しさに魅せられて」と題する最終講義が行われました。土曜日にも関わらず、資料が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。先生による電子オルガンの演奏やふんだんな映像資料があり、先生らしい、大変魅力的な講義となりました。講義後には同じ会場で15時から16時まで茶話会が開催されました。会場にはこれまでの卒業生が学会発表等で行ったポスターが掲示され、それをネタに参加者同士の会話に花が咲きました。その後会場をグランベール岐山に移動し、17時から祝賀会を行いました。そこではOB中心の参加者が出し物をする等、それぞれが感謝の気持ちを表現し、盛況のうちに幕を閉じました。本事業を通じ川窪先生の教えの影響力の大きさを実感するとともに、その内容を受け止め、引き続き継承していきたいと思えます。大変ありがとうございました。(広田勲)

鬼頭先生

最終講義ご報告

鬼 頭 克 也 教授

共同獣医学科で長らく教鞭をとってこられた鬼頭克也教授は令和6年をもって定年退職されました。ご退職に際して令和7年2月27日、応用生物科学部101多目的ホールにて最終講義を開講いただきました。ご講演は「30年を振り返り―『いつ、どこで』―」と題し、岐阜大学ご着任から現在までの先生のご研究とご教育活動について懐かしい写真と共にご紹介いただきました。またご講演の最後には、先生がご専門とされる小動物臨床とくに止血異常に関わる疾患の診断と治療について、現在なお残されている問題点についてご解説いただきました。先生はご退職後もこの分野に残された問題の解決に向けてご研究を続けられるとのこと。その熱い思いに感銘を受けた次第です。ご講演のあとは学内で茶話会が開かれ、多くの卒業生らが鬼頭先生を囲み思い出話で盛り上がりました。さらに茶話会だけでは飽き足らない面々は、二次会、三次会と街へ繰り出し明け方まで旧交を温めました。(高島康弘)

退職予定者のあいさつ

退職に際して

土田 浩治



1993
年4月に助
手として着任
して以来、
30年以上にわ

たつて在職いたしました。この間、
ご指導・ご支援を賜りましたこと、
心より感謝申し上げます。

思い返せば、博士号を取得した
際に「一度くらいは応募してみよ
うか」と軽い気持ちで公募に出し
たのが始まりでした。結果として
こうして長く勤めることができた
のは、当時の選考委員の「見る目」
がなかったおかげだったのかもしれ
ません。

在職中、印象に残っている出来
事として、補欠繰り上げという思
いがけない形で、オーストラリア
に1年間滞在する機会を得まし
た。ちょうど出発の1ヶ月前、自

宅で夕食をとっていた時に、テレ
ビ画面に映し出されたのが、9・
11同時多発テロのニュースでした。
思わず箸が止まったことを今でも
よく覚えています。現地に到着後、

最初に覚えた英単語が「Anthrax
(炭疽病)」だったというのも、忘
れがたい思い出です。当時、炭疽

菌入りの郵便物による無差別テロ
が相次ぎ、世界的な緊張が高まっ
ていました。そんな只中での滞在
は、なかなか印象的なものでし

た。2011年には、札幌での生
態学会の最中に、天井の照明が大

きく揺れ、「津波が心配だ」と不
安が会場に広がりました。ですが、
事態はそれをはるかに超えて深刻
であり、重苦しい気持ちで帰宅の
途についたのを覚えています。

研究面では、比較的順調に取り
組むことができたと思います。着

任以前からアシナガバチを研究対
象としていましたが、これが外来
種の問題にもつながり、基礎研究
を出発点として、応用的なテーマ

にも取り組むことができました。
私の恩師は常々、「最も基礎的な
ことが、最も役に立つ」と語って

いました。私自身もその教えを信
じて研究を続けてきましたし、学

生に対しても、そうしたい思いが少

しでも伝わればと思いながら接し
てきました。もし、その思いを共
有してくれた学生がいたなら、そ

れは私にとって何よりの喜びです。

長い間、誠にありがとうございました。

それでは、

野生動物管理を巡る

岐阜大学の昨今

(退職のご挨拶を兼ねて)

鈴木 正嗣



私が岐阜
大学に着任し
てからの約二
十年（正確
には十九年と

なります）は、野生動物を「保護
のみならず管理の対象」として捉
える風潮が、日本社会に浸透・定
着した二十年と言えるかもしれま

せん。着任した平成十九年には鳥
獣被害防止特措法が制定され、
平成二十六年には鳥獣保護法が
鳥獣保護管理法へと改正・名称変
更されたためです。

このような大きなうねりの時期
に岐阜大学に籍を置き、存分に教
育研究に取り組みさせていただいた
ことは、私の人生にとって何もの
にも代えがたい幸せでした。学生
諸氏を含む岐阜大学の皆様には、
改めて御礼を申し上げます。本当
に有り難うございました。

在職期間中、やり甲斐をもって
携わらせていただいた事業や活動
は十指に余りありますが、そのな
かで特に印象に残るものは次の二
つとなります。

一つ目は、岐阜県の寄付により
応用生物科学部附属野生動物管
理学研究センターに寄附研究部門
が設置され、令和四年には、それ
に続く流れとして岐阜県と岐阜大
学との共同運用による岐阜県野生
動物管理推進センターが発足した
ことです。このような野生動物管
理に特化した自治体と大学との連
携関係は他に例がなく、これから
の日本を牽引するモデルとして注
目を集めました。

二つ目は、野生動物管理学教育
に関わるコア・カリキュラムの策
定です。この作業は、「野生動物
管理に関する系統的な教育システ
ムの整備が不可欠」という日本学
術会議の指摘を受け、環境省と農
林水産省の主導のもとに進められ
ました。策定されたコア・カリキュ
ラムに準拠する教育体制について
は、令和六年に東京農工大学等と
の間で締結された「野生動物管理
教育研究に係る大学間の単位互換
に関する協定」により、実質化の
端緒が開かれています。

以上、退職のご挨拶を兼ね、近
年の岐阜大学と野生動物管理との
関わりについて記させていただきました。
しかし、農林業被害や市
街地出没等の諸問題は収束するに
至っておらず、わが国における野
生動物管理学の顕著かつ具体的な
成果の表れは、残念ながら少々先
のことになりそうです。そのため、
この分野の発展に向けては、退職
後も微力ながら貢献をさせて頂く
所存でおります。つきましては、
引き続きご指導・鞭撻のほど、ど
うかよろしくお願い申し上げます。

退職者記念事業のお知らせ

土田浩治教授の

定年退職のお知らせ

は教授に昇任され、以後、教育・研究の両面で本学の発展に大きく寄与されました。

とりわけ、野外調査や実験を重視した実践的指導と、学生の主体性を尊重する教育姿勢は、多くの学生に深い学びの機会を与え、さまざまな分野での活躍の礎となりました。研究面では、主にアシナガバチ類を中心に、社会性昆虫の行動生態や集団遺伝構造の解明に取り組まれてきました。特に、遺伝的多様性や系統構造の解析を通じて、分布拡大の経路、地理的分化、そして繁殖戦略の進化的背景を明らかにする研究を行い、真社会性昆虫の進化学分野の発展に大きく貢献されました。

生物圏環境学科の土田浩治教授は、令和8年3月31日をもって定年退職されます。先生は昭和59年に名古屋大学農学部をご卒業後、昭和61年に同大学大学院農学研究科博士前期課程を修了されました。その後博士後期課程に進学されましたが、中途退学し、岐阜県の技術吏員として平成5年3月まで勤められました。県職員としてのご勤務の傍ら、平成4年には名古屋大学より論文博士として農学博士の学位を授与されました。平成5年4月には岐阜大学農学部生物生産システム学科に助手として着任され、平成9年に助教授に昇任されました。さらに平成13年には、JSPS特定国派遣研究者としてオーストラリアのFlinders大学とCSIROに2年間滞在され、研鑽を積まれました。平成16年に

先生のご退職にあたり、最終講義を令和8年3月21日（土）13時より、応用生物科学部101多目的ホールにて開催いたします。講義終了後の16時より茶話会も開催する予定です。多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

（岡本朋子）

鈴木正嗣教授の

定年退職のお知らせ

共同獣医学科の鈴木正嗣教授は、2026（令和8）年3月31日をもって定年退職されます。先生は、1987年3月に帯広畜産大学大学院修士課程を修了後、1989年4月に北海道大学歯学部助手として採用され、1994年3月に北海道大学大

学獣医学研究科にて博士（獣医学）の学位を取得されました。その後、1999年4月の北海道大学大学院獣医学研究科助教授就任を経て、2005年4月に応用生物科学部獣医学課程（当時）教授に着任され、今日まで教育・研究に専念されました。

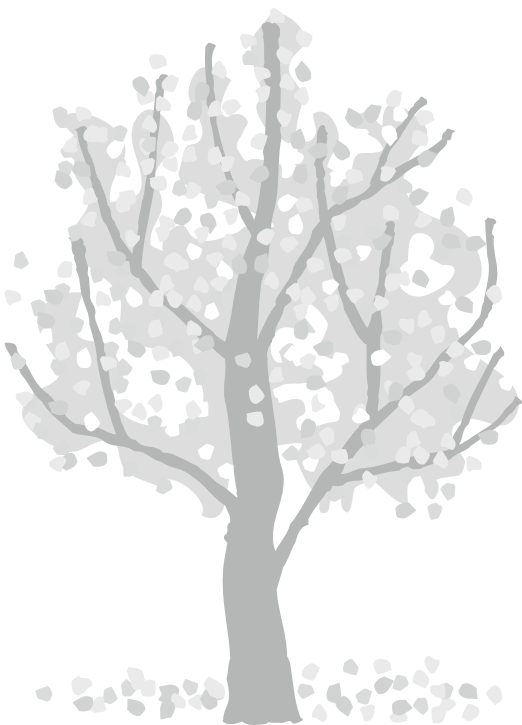
先生は、野生動物の繁殖生理や感染症のほか、野生動物とヒトとの関わりを含む社会的な研究にも従事され、特に近年は、「人口縮小社会における野生動物管理のあり方」に関わる政策立案や教

育・普及に大きく貢献されました。

「日本哺乳類学会」においては理事・幹事、「野生生物と社会」学会においても理事・幹事・学会長（2020-2023）を歴任されました。学内では、共同獣医学科長（2015-2019）、附属野生動物管理学研究センター長（2009-2022）、岐阜県野生動物管理推進センター長（2022-2025）などの要職を長きにわたり務められ、学生の教育ならびに大学・学部運営、岐阜県との産学協働拠点形成など、多大な貢献を果たされました。

先生のご退職にあたり、最終講義を2026（令和8）年2月20日（金）14時30分より、応用生物科学部101多目的ホールにて開催いたします。また、講義終了後、16時から茶話会を開催する予定です。多数のご参加をお待ち申し上げます。

（浅野玄）



吉寄基金

心の健康に貢献する

食肉由来成分の機能性評価

応用生命科学課程

食品免疫学研究室

北口 公司

ストレスによる心身の不調はうつ病などの精神疾患発症のリスクとなりますが、近年、「ストレスに折れない心」や「逆境力」を意味する「レジリエンス」に注目が集まっています。すなわち、レジリエンスを鍛えることで、ストレスによる心身の不調を予防できる可能性が示唆されています。本研究では、食肉に含まれるカルノシンを摂取することによって、ストレスによって誘導される不安・うつ様行動が緩和できることを発見しました。多くの

現代人にとって避けることが難しい社会的ストレスを緩和し、レジリエンスの獲得を食品の摂取によって実現することは、食品機能の新たな可能性を切り開くこととなります。カルノシンは、腸管や肝臓などの複数の臓器が連関する新規作用経路を介してストレスを緩和していることも見出し、今後はその詳細な作用機序を明らかにする所存です。

最後になりましたが、本研究をご支援いただきましたことを心より感謝申し上げます。

閉経後骨粗鬆症の

メカニズム解析

応用生命科学課程

近藤 位 旨

閉経によるエストロゲン分泌の停止は骨密度の低下をはじめに、女性の健康状態に大きく影響します。しかし、閉経後骨粗鬆症の発症機序は現在も明らかになっていません。

私はこれまでの研究から、閉経後モ

デルマウスでは炎症が生じるのではなく、炎症に対する防御機構が弱くなるという知見を得ていました。この知見を基に、閉経後骨粗鬆症はグルタチオンペルオキシダーゼの機能低下による炎症防御機能の破綻により生じると仮説を立て、その検証を細胞実験から行いました。実験の結果、グルタチオンペルオキシダーゼの機能変化だけではこの発症機序を説明できないことは明らかになることができました。今後は、この知見を糧として、栄養素による炎症抑制と骨代謝の関連から健康な骨を作る食事の提案に資する研究を行っていきたいと考えています。

最後になりますが、多大なるご支援をいただきました吉寄清己様および御遺族の方々に心より御礼申し上げます。

C19 吉寄清己研究支援

寄附金の令和7年度

受領者選考について

上野 義 仁

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己様の篤志により、平成19年度から「吉寄清己研究支援寄附金」として、応用生命科学課程教員の研究を支援して頂いています。ご遺族様から、ご逝去後もご援助を継続して頂けるといふ吉寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂きました。令和7年度はTHAMMAWONG Manasikan 准教授の「光照射による青果物の品質保持および低温障害軽減効果の解明とその応用」と橋本美涼助教の「BCLAF1のアルギニンメチル化修飾が神経細胞機能に与える意義の解明」に、それぞれ500,000円のご支援を頂くことになりました。先生方には、吉寄様が望んでおられる「応用生命科学課程の名声を高める研究」に進頂ければと思います。

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。令和6年度も各課程、学科および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学部および自然科学技術研究科の学生の中から次の受賞者が決定されました。受賞者は心よりお祝い申しあげます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程

佐藤 綾

生産環境科学課程

野中 美優

共同獣医学科

川田 うらら

生命科学・化学専攻

源 日向

生物生産環境科学専攻

藤原 早紀

岐阜大学・インド工科大学
グワハティ校国際連携食品
科学技術専攻

杉原 早紀

佐藤 綾

この度は同窓会長賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。岐阜大学で過ごした4年間は私にとってかけがえのない財産であり、改めて熱心にご指導いただいた先生方や先輩方、苦楽を共にし支え合った友人達に心より感謝申し上げます。

卒業後は食品メーカーに就職し、忙しくも充実した毎日を過ごしております。今後も岐阜大学で学び得たものを活かし、社会に貢献できるよう日々努めてまいります。この度は本当にありがとうございます。

野中 美優

このたびは、同窓会長賞という名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。

このような栄誉を頂けたのは、共に切磋琢磨してきた友人をはじめ、ご指導いただいた先生、そして支えてくれた家族のおかげ

であり、心より感謝申し上げます。現在、私は修士課程に進学し、研究活動に取り組んでおります。思い通りにいかないこともありますが、日々新たな挑戦を重ねるなかで、多くの学びを得ております。

この度は栄誉ある同窓会長賞を賜り、誠にありがとうございます。自身の関心に真摯に向き合い、日々の研究に打ち込んできた成果がこのような形で実を結び、大きな喜びと達成感を感じております。ご指導くださった先生方やともに研究に励んだ仲間、支えてくれた家族に深く感謝申し上げます。

川田 うらら

この度は同窓会長賞という名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。支えてくださった周囲の皆様により感謝申し上げます。長いようであつという間の大学生活でしたが、獣医学の勉強はもちろん、研究室やサークル活動などを通して実りのある6年間を過ごすことができました。現在は新たな仕事と環境に苦勞しながらも充実した日々を送っております。今後は大学生活で得た学びをもとに獣医師として、1人の社会人として貢献できるよう努めてまいります。

源 日向

研究室では貴重な経験を数多くさせていただき、本当に密度の高い学生生活となりました。岐阜大学での学びを糧に、今後は社会人として今まで以上に精進していきたいと思っております。

藤原 早紀

このたび同窓会長賞を賜り、大変光栄に存じます。熱心にご指導くださいました指導教員をはじめ、生物生産環境科学専攻の先生方に心より感謝申し上げます。また、日頃より研究生活を支えてくださっている各務同窓会の皆さまにも深く御礼申し上げます。このたびの受賞を励みに、大学で得

た学びや姿勢を活かしながら今後の社会人生活もより一層精進してまいります。末筆ながら、各務同窓会のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

杉原 早紀

このたびは同窓会長表彰を賜り、誠にありがとうございます。身に余る光栄とともに、これまで支えてくださった多くの方々への感謝の念を改めて深く実感しております。

温かくご指導くださった先生方、学びの機会や経験を通じてご支援くださった同窓の皆さまに、心より御礼申し上げます。

皆さまのお力添えがあつてこそ、今の自分があると強く感じております。

今後も一層研鑽を積み、微力ながら母校および同窓会の発展に貢献できるよう努めてまいります。



在学生の活動

iGEM活動報告

代表 牧村美優

平素よりiGEM Giftへの温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

私たちは、世界最大の合成生物学の大会「iGEM (International Genetically Engineered Machine)」に挑戦する、岐阜大学公認の学生団体です。

iGEMは、世界中の学生チームが合成生物学を用いたプロジェクトを立ち上げ、メダルや特別賞を目指して成果を競



い合う大会です。これまでに65以上の国から86,000人以上の学生が大会に参加しており、独自のアイデアで合成生物学を通じた社会問題の解決に取り組んできました。iGEMでの活動は、研究にとどまらず、教育活動の実施やステークホルダーとの対話、研究成果が社会に与える影響の調査など、多岐にわたります。これらの活動全体が世界中から集まる幅広い年代・専門性をもつ審査員によって評価されて、メダルや特別賞が決まります。

iGEM Giftは2024年度に長浜バイオ大学とともに合同チーム「iGEM schinet」を結成し、2025年度大会に向けて活動を本格化させました。合同チームの指導教員は岐阜大学 農産食品プロセス工学研究室の今泉鉄平先生に担当していただいております。私たちは現在、2025年10月28日から31日にかけてフランス・パリで開催される大会への出場に向けて、研究や広報、資金調達、対外活動に取り組んでおります。大会には「Cre/loxP」システムを用いた



バイオセンサーの開発」というプロジェクトテーマで出場する予定です。現在、環境負荷や食糧不足と大きく関連する食品ロスが世界的な問題となっており、私たちは特に、細菌の繁殖や植物ホルモン「エチレン」の影響を受けて劣化する青果物に着目しました。本プロジェクトでは、劣化した青果物が放出するエチレンを検出・可視化して、廃棄の判断指標とすることで、劣化の連鎖を防ぐことを目指します。さらに、抗菌作用を組み合わせることで、菌の繁殖による腐敗も同時に防止し、青果物の廃棄量を削減する仕組みが構築します。

「バイオテクノロジー」の力で世界をより良い方向へ変える」そんな思いを胸に、チーム一同、大会まで全力で活動に取り組んでまいります。

今後ともiGEM Giftへの変わらぬご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



支部・会員からの便り

家禽畜産学科同窓会

家禽畜産学科同窓会 副会長

(昭和55年3月卒 15回生)

原 健治

家禽畜産学科同窓会は平成5年11月21日に第30回記念大会を開催し、今後も同窓会を開催する事が決議され、5年に1回を目途に開催を続けております。

第7回家禽畜産学科同窓会の開催を令和4年11月12日(土)に計画しましたが、折からの新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、残念ながら開催は見送られてしまいました。

翌年、コロナ感染症が感染法上の第2類から第5類に移行したことから、令和6年5月11日(土)に令和6年度第1回役員会を開催して、第7回家禽畜産学科同窓会を令和6年11月9日(土)に「十八楼」で開催する事を決定しました。

前回の第6回家禽畜産学科同窓会は平

成29年11月11日(土)に58名(同窓生名55名、来賓・恩師3名)の参加で開催しましたので、7年ぶりの開催となります。

同窓会当日は、総会と懇親会を開催いたしました。来賓として生産環境科学課程応用動物科学コース准教授の二宮茂先生、恩師である杉山道雄先生、田中桂一先生をお迎えし、第1回卒業生の鶴見昇三先輩、山田義武先輩を始め、平成5年3月の最後の家禽畜産学科の卒業生まで41名のご参加をいただきました。特に川島光男家禽畜産学科同窓会会長の年代は7名のご参加をいただき、同窓会を盛り上げて頂き、参加者の皆さんも青春時代が蘇ったことと思います。

最期に令和7年6月7日(土)に令和7年度各務同窓会代表者委員会に参加をさせて頂きましたが、報告事項の中で、支部の課題として「応用生物科学部」に改変されたことにより、旧農学部学科の卒業生との特定が難しく、新規会員の加入がないことから支部の解散に繋がっ

てしまうという現実がありました。今後家禽畜産学科同窓会を開催していく所存ではありますが、支部の新規会員の加入拡大について各務同窓会と検討していきたいと思っております。

また、同窓生のみならずには次回家禽畜産学科の総会・懇親会を開催する際には、同年代の同窓生に声をかけていただくなどして、多くの家禽畜産学科同窓生が集い、同窓会を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。



柴田知広氏の

叙勲を祝して

東京E科会

(1981年E科卒 29回生)

長井 薫

令和6年秋、柴田知広氏(1975年E科卒)は農林水産行政事務功勞により瑞宝章の榮譽に浴されました。ご出身が多治見市であることから、岐阜県内の新聞に掲載されましたので、閱讀された方も多いと思います。ここでは、農林水産省で薫陶を賜った後輩の一人として、ご功績と農林水産行政の一端を紹介します。

まず、柴田知広さんの経歴を紹介します。

1975年4月に当時の農林水産省構造改善局に就職されました。都内での住まいは港区南青山の旧軍施設を改造した独身寮でした。退職までの38年間に17回(独身時に2回)転居し、農林水産省本省、同地方農政局(東北、関東、北陸、九州の各農政局)、内閣府沖縄総合事務局、水資源機構といった

国等の機関において、専ら農業農村整備事業に関する任務にあたられました。その間、北陸農政局建設部長や水資源機構筑後川局長の要職を歴任されるなど、職歴の大半において国等が実施する大規模な農業水利事業の推進に尽力されました。

次に、柴田知広さんが深くかわった事業を紹介します。

農業水利事業とは、農業農村整備事業の中核的事業であり、農業水利施設の新設、改修等を実施します。ちなみに、農業農村整備事業は、農業生産の基盤と農村の生活環境の整備・保全を通じて「農業の持続的発展」、「農村の振興」、「食料安全保障の確保」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」及び「多面的機能の発揮」の実現を図るための事業であり、農林水産行政施策の重要な柱の一つです。

具体的には、①霞ヶ浦の湖水を汲み上げて筑波山周辺の関東平野に広がる圃場に送水するパイプラインシステムを新設する事業、②筑後川下流域に広がる福岡・佐賀両県のクリーク地帯で



左：柴田知広さん 令和7年1月 お祝いの場にて

水争いが絶えなかった水田の大規模な圃場整備と用排水システムの抜本的な再編事業、③さらには農業農村整備に関する技術の全国的な普及啓発や人材育成等の業務などを挙げることができます。

これら広範な事業の責務を事務所長として遂行されました。そして、退職前には、農林水産省農村振興局で分析

官を務められ、歴任された事業の記録や地域にもたらされた事業効果の分析などに取り組まれました。

最後に、触れておきたいエピソードがございます。

職責にあつて2009年3月に出版した「国営霞ヶ浦農業水利事業誌」「同技術誌」を岐阜大学図書館と事業の地元・下妻市立図書館に寄贈されています。たずさわった事業や事業地域への思い入れが人一倍強く深いと察せられます。

港区南青山の青葉寮を皮切りに始めて17回の転居を繰り返した公務員生活は、およそ1箇所に2年間の生活の積み重ねです。最近では想像し難い生活環境といえるかも知れません。

柔和なお人柄の先輩が経験されたご苦労に敬意を表し、後進育成への期待とますますのご健勝を祈念申し上げます。



P大13最後の同級会

河原 洋之（P大13）

5月20日から21日にかけて「P大13最後の同級会」を実施しました。当日は14名の参加があり、楽しい時間を過ごしました。最初に希望者9人で鶴匠の山下哲司さんの自宅に伺い、鶴飼や鶴匠、鶴の話などを伺いました。17時から石金で夕食をとりながら懇親会となり、夕食終了



後に鵜飼観覧をしました。翌日は、岐阜大学の柳戸キャンパスに向かい、応用生物学部二宮先生に学部の施設の案内をしていただきました。その後、図書館に移動し、2階のアーカイブ・コアの見学を楠田先生の案内で行いました。大学の施設見学については、各務同窓会事務局の増田さんに協力をいただきました。この見学をもって同級会を終了しました。

どつぷりど級の

極上田舎、高知から

高知支部

有光（綿貫）麻子（B大1）

高知といえば、鯉のタタキ、桂浜、足摺岬と海のイメージが強いですが、実は山が多く森林率は84%と日本一です。（岐阜は2位）

そして、高知といえば坂本龍馬ですが、今期の朝ドラのモデルでアンパンマンの生みの親、やなせたかし先生も有名です。



高知支部 有光先輩（F大28）と一緒に



高知を元気に走る赤い路面電車（旧名鉄車輛）

山と海が近い上に、最後の清流四万十川、奇跡の清流仁淀川に恵まれて、日本酒をはじめ美味しいものがたくさんあります。

かつて岐阜市内を走っていた路面電車に乗って、旬の高知を旅してみませんか？お待ちしております。

令和8年度会報（No.107）の会員からの便りのコーナーに寄稿をご希望の方は、事務局まで連絡下さい。また、掲載して欲しい記事内容のリクエストもお待ちしております。

【会員の受章】

渡 邊 孝 義
(A大4)

高齢者叙勲 瑞宝双光章

令和2年5月1日

柴 田 知 広
(E大23)

瑞宝小綬章

令和6年11月3日

同窓会員の受章（叙位、叙勲等）・受賞等の情報収集に努めておりますが、会員の皆様からも、情報をお寄せいただければ、確認がとれしだいホームページ・会報に掲載してまいります。

No.106

令和7年9月29日

各務同窓会報

支部リスト

	支部名		〒	連絡先	TEL	支部長または代表者	卒業回	支部員数
--	-----	--	---	-----	-----	-----------	-----	------

東京支部長後任について

本年度の代表委員会にて一年間の猶予をもって情報をお寄せいただくこととなりました。

支部長後任候補の方を探しております。支部会員の方で支部長になっていただける方がいらしたら事務局までご一報ください。

東京支部の名簿リストは事務局で保管しております。

連絡がない場合は、次年度の代表委員会で廃止も視野に入れ議論することとなります。

滋賀県支部、香川支部 …………… 廃部

兵庫県支部、江南支部、岐淀会 … 解散

令和7年度 代表委員会承認

各務同窓会報

令和6年度 卒業・修了生進路先

【応用生物科学部】
応用生命科学課程

進路先	所在地				
キッセイコムテック	長野県	日清オイリオグループ	東京都	ヤマモリ	三重県
コタ	京都府	日本食品分析センター	東京都	八州製作	岐阜県
厚生労働省（食品衛生監視員）	東京都	日本生活協同組合連合会	東京都	山崎製パン	東京都
ジーエフシー	岐阜県	パーソルテンプスタッフ	東京都	ロック・フィールド	兵庫県
杉本屋製菓	愛知県	不二家	東京都	名古屋大学環境学研究科	
積水メディカル	東京都	富士フィルムワコーケミカル	宮崎県	地球環境科学専攻	
東海漬物	愛知県	マルサンアイ	愛知県	名古屋大学大学院生命農学研究科	
名古屋市役所	愛知県	三若純薬研究所	愛知県	応用生命科学専攻	
西原商会	鹿児島県	メニコネクト	愛知県	岐阜大学科目等履修生	
		名城食品	愛知県	岐阜大学大学院自然科学技術研究科	

生産環境科学課程

進路先	所在地				
Impact English college in Brisbane (語学学校)		株式会社桜メディカルサプライ (おち夢クリニック名古屋)	愛知県	長門牧場	長野県
アニコム損害保険	東京都	岐阜県公衆衛生検査センター	岐阜県	ニュージェック	大阪府
アワーズ(アドベンチャーワールド)	大阪府	岐阜県庁	岐阜県	農林水産省 植物防疫所	神奈川
愛知県経済農業協同組合連合会 (JAあいち経済連)	愛知県	京都市役所(畜水職【京都市動物園】)	京都府	農林水産省 林野庁	東京都
愛知県庁(農学・農業土木)	愛知県	グリーンシステムコーポレーション	栃木県	フィード・ワン	神奈川
愛知県農業共済組合	愛知県	クレスト	愛知県	フィード・ワンフーズ	神奈川
医療法人RCT会 (リプロダクションクリニック東京)	東京都	厚生産業	岐阜県	福井県庁	福井県
医療法人社団五の橋産婦人科 (五の橋レディースクリニック)	東京都	国土交通省 気象庁	東京都	ペネトレイト・オブ・リミット	東京都
オリックス水族館	東京都	テイコク	岐阜県	リーフ	愛知県
カナエジオマチックス	愛知県	東海国立大学機構岐阜大学 全学技術センター フィールド科学技術支援室	愛知県	若鈴コンサルタンツ	愛知県
		栃木県庁	栃木県	京都大学	
		中部飼料	愛知県	アジア・アフリカ地域研究研究科	
				滋賀県立大学環境科学研究科 環境動態学専攻	
				岐阜大学大学院自然科学技術研究科	

共同獣医学科

進路先	所在地				
愛知県庁	愛知県	シスメックス	兵庫県	兵庫県農業共済組合	兵庫県
株式会社MRI(名古屋みらい動物病院)	愛知県	島根県庁	島根県	有限会社イー・エス(もろの木動物病院)	愛知県
株式会社ケンテル(やまざき動物病院)	愛知県	千葉県農業共済組合	千葉県	有限会社えさき動物病院 (えさき動物病院)	岐阜県
株式会社たなはし(たなはし動物病院)	岐阜県	どうぶつ病院京都株式会社 (動物病院京都本院)	京都府	日本大学大学院獣医学研究科 獣医学専攻(獣医病態制御学)	
株式会社みのわ動物病院 (みのわ動物病院)	岐阜県	東京大学大学院 農学生命科学研究科獣医学専攻		兵庫県立大学環境人間学研究科 共生環境部門森林動物系 (博士後期課程)	
岐阜県庁	岐阜県	長崎県庁	長崎県	岐阜大学大学院共同獣医学研究科	
合同会社kotori(小鳥と小動物の病院)	奈良県	長野市役所	長野県		
国立研究開発法人 農研機構 動物衛生研究部門	茨城県	農林水産省	東京都		
		微生物化学研究所	京都府		

【自然科学技術研究科】 生物生産環境科学専攻

進路先	所在地				
Department of Agriculture	ガーナ	カイインダストリーズ	岐阜県	中部電力	愛知県
Faculty of Water Resources, NUOL (teaching assistant)		株式会社TAMAGOメディカルサービス (金沢たまごクリニック)	石川県	トヨタシステムズ	愛知県
KANSOテクノス	大阪府	岐阜県今渡南小学校	岐阜県	豊田自動織機	愛知県
Malaysian Agricultural Research & Development Institute (MARDI)	マレーシア	岐阜県庁 (林政部 他)	岐阜県	日清丸紅飼料	東京都
Mizkan J plus Holdings	愛知県	協友アグリ	東京都	日本たばこ産業	東京都
necソリューションイノベータ	東京都	興栄コンサルタント	岐阜県	日本曹達	東京都
NPO法人 どうぶつたちの病院	東京都	クミアイ化学工業	東京都	日本農薬	大阪府
WDB エウレカ社	東京都	クラーク記念国際高等学校 (理科)	兵庫県	農林水産省	東京都
イカリ消毒	東京都	ケー・イー・エルテクニカルサービス	東京都	ファーマインド	東京都
イビデングリーンテック	岐阜県	経済産業省	東京都	丸島アクアシステム	奈良県
一般財団法人岐阜県 公衆衛生検査センター	岐阜県	公益財団法人 名古屋みなと振興財団 (名古屋港水族館)	愛知県	森永乳業	東京都
エヌエス環境	東京都	三和化学研究所	愛知県	ユニ・チャーム	東京都
大増コンサルタンツ	愛知県	シヤチハタ	愛知県	ユニオン	岐阜県
		大日コンサルタント	岐阜県	名古屋工業大学 工学研究科 工学専攻	
		地域環境計画	東京都	岐阜大学大学院 連合農学研究科	

生命科学・化学専攻

進路先	所在地				
DNP情報システム	東京都	カルビー	東京都	日本アクセス	東京都
JAPAN TESTING LABORATORIES	岐阜県	キッセイ薬品工業	長野県	日本コーンスターチ	東京都
LIXIL	東京都	岐阜県庁	岐阜県	日本ニュートリション	東京都
Mizkan J plus Holdings	愛知県	コムチュア	東京都	ネクスティ エレクトロニクス	東京都
アイカ工業	愛知県	合同酒精	東京都	日立グローバルライフソリューションズ	東京都
アサヒグループ食品	東京都	佐藤食品工業	愛知県	フジミインコーポレーテッド	愛知県
アサヒ飲料	東京都	シード	東京都	物産フードサイエンス	愛知県
アピ	岐阜県	シミック	東京都	マルハニチロ	愛知県
味の素	東京都	第一工業製薬	京都府	ミズノテクニクス	岐阜県
天野エンザイム	愛知県	デンソーテクノ	愛知県	武蔵精密工業	愛知県
イシダ	京府府	トヨタ紡織	愛知県	名糖産業	愛知県
一般社団法人 日本血液製剤機構	東京都	東洋合成工業	東京都	森永乳業	東京都
エイアンドティー	神奈川県	東亜合成	東京都	森下仁丹	大阪府
エーザイ	東京都	長岡香料	大阪府	ヤクルト本社	東京都
エステー	東京都	ニッスイ	東京都	ユーハ味覚糖	大阪府
小野薬品工業	大阪府	日星電気	静岡県	ロッテ	東京都
		日清食品HD	東京都	岐阜大学大学院連合農学研究科(博士)	

岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻

進路先	所在地		
Indian Institute of Technology, Bombay (IITB)		H.U.グループ (富士レビオ)	東京都
		理研ビタミン	千葉県
		岐阜大学大学院連合農学研究科(博士)	

同窓会連合会長賞受賞者

亀井 正治



この度、岐阜大学同窓会連合会会長賞なる素晴らしい賞をいただき大変光栄に思っております。私は岐阜大学大学院の農学研究科を第3期生として昭和45年3月に修了致しました。応用昆虫学を専攻してテントウムシの生理生態学の大変ユニークな地道な研究を楽しく学ばせていただきました。大学院修了後は福島教授より教務補佐員として教室に残るように言われ、お世話になりました。その後愛知県で高校教師をしておりましたが、郷里徳島にある大塚製薬株式会社より新

しい害虫駆除剤の研究を始めるとの事でお声がかかり徳島工場第2研究所の研究員として転職を致しました。企業人1年生として新規商品開発に取り組み、昆虫のホルモン作用を示す類縁化合物を用いた新しい第3世代の防除剤研究に従事し本邦で初めて蚊の成虫羽化阻害剤を完成させることが出来ました。また、会社の同僚と一緒に昆虫フェロモン剤開発にも従事しました。幸いな事に、昆虫の幼若ホルモン類縁化合物は蚊の幼虫(ボウフラ)に作用して成虫化させない効果があるものの魚類やその他の生物種には害をしないと云う利点がありました。更にこの化合物はペットに寄生するノミ類の成虫に処理することでノミの卵をも孵化させない効能も見られ、ペットの首筋に滴下しておくだけでノミ被害軽減に役立てることもできました。

これらの研究活動は、衛生動物学会や日本環境動物昆虫学会分野で報告を行いました。愛媛大学連合大学院に博士論文「昆虫の幼若ホルモン類似化合物Methopreneの防疫用薬剤としての実用化に関する研究」として提出致しました。平成5年9月9日に愛媛大学連合農学研究科委員会より農学博士号を頂く事が出来ました。

学位取得後、地元徳島大学工学部生物工学科より、客員教授としてのお誘いがあり、企業在籍のまま後進の指導に当たらせて頂きました。丁度、双翅目昆虫(イエバエ)が腸管性大腸菌O157の媒介をするか否かの検討が話題となり種々実験を行い、2年ほど学生の卒論指導を行いました。人として生まれたからには世の中への貢献をし続けたいと考えておりましたが、小さな昆虫を相手に一研究者からスタートして、幸いな事に人と人との関わりの中で色々な人のご協力を頂き次々と楽しく仕事を発展させることが出来ました。世の中は、ペットブームとなり、これに関する商品の要望が多くなり、種々検討しました。会社の業績も発展し研究所からアース・バイオケミカル株式会社へと発展し、組織の中で研究員だけの仕事から代表取締役をまかされるようにもなり、M&Aにも携わり、企業従業員の事の中へ、企業発展の事や世の中への貢献をも考える事にもなりました。

私にとって岐阜大学大学院時代に培った人と人との繋がりの中で豊かな人生を持たせて頂いていることは有難いことであります。アース・バイオケミカル株式会社はアースペット株式会社と改め、代表取締役から会長となり1年で組織を退きました。今は故郷生家にて山林と田畑を管理しつつ晴耕雨読の年金暮らしの毎日ですが、心の内は岐阜大学大学院時代の様に新しい物事に興味を持ち続けています。

同窓会連合会長賞受賞の亀井正治氏 岐阜大学ホームカミングデイ2025特別講演

1. 日時：令和7年11月1日(土) 9:30～12:00(予定)
2. 場所：岐阜大学講堂(YouTube 同時配信予定)
3. 内容等：岐阜大学同窓会連合会会長表彰および特別講演
 - ・10:10～10:20 岐阜大学同窓会連合会会長表彰
 - ・10:30～12:00 特別講演

うち 亀井正治氏講演時間 11:00～11:30

※詳細は、9月以降の岐阜大学ホームページにてご確認ください。

当日は岐大祭も開催されております。この機会に午後からの応用生物科学部での講演会(P25)とあわせて是非岐阜大学にお越しください。

岐阜大学 応用生物科学部 HOMECOMING DAY

令和7年11月1日（土）



問合せ先：ouseigkm@t.gifu-u.ac.jp

◆プログラム◆

★講演会★ 応用生物科学部101多目的ホール

13：30～ 開会挨拶 応用生物科学部 西津 貴久 学部長

13：40～ 応用生物科学部教員 講演

応用生命化学科 谷 元洋 教授

『酵母で調べる生体模脂質の機能』

生物圏環境学科 伊藤 健吾 教授

『農業の集約化が農地生態系に及ぼす影響』

14：20～ 農学部・応用生物科学部卒業生 講演

岐阜県西濃県事務所長（岐阜県職各務同窓会長）

足立 葉子氏（農学科S62年度卒）

『良い仕事は、良い人間関係から』

広島市安佐動物公園 獣医師・動物診療係長

野田亜矢子氏（獣医学科H9年度卒）

『キツネ・サイ・ときどきマルミミゾウ』

★交流会★ 応用生物科学部102/103講義室

15：00～17：00 教職員・学生・保護者・同窓生等による交流会

※平成15年卒、平成20年卒、平成25年卒の終身会費納入者学部卒の同窓生の方には、既にハガキで案内済みです。

※どなたでも入場可能です。参加費無料ですので、お誘い合わせのうえぜひご参加下さい。

計 報

昨年の会報105号以後、令和7年7月までに御逝去が確認された方々は、次のとおりです。
謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

旧教員	林学科	C大14 伊 藤 忠 義	E大26 森 口 稔 宏
旧教員 梶 川 千賀子	F大4 石 井 生 路	C大14 鈴 木 繁 樹	E大36 白 木 基 路
	F大6 村 井 義 典	C大15 水 野 隼 人	
農学科	F大7 近 藤 雅 春	C大26 河 田 照 雄	総合農学科
A22 塚 本 忠 男	F大14 石 本 高 重	C大36 五藤(辻本)直子	N大3 伊 坪 萬 蔵
A25 白 倉 治 一	F大14 長谷川 一 樹		N大4 稲 川 暎 二
A大1 河 部 義 通		獣医学科	N大4 千 秋 直 康
A大1 丸 田 榮 一	農芸化学科	V9 長 正 司	N大7 鶴 飼 弘 道
A大2 杉 山 喬	C19 岩 井 和 夫	V9 豊 島 五 郎	N大7 橘 健 弘
A大3 杉 浦 彦 展	C22 伊 藤 鎮 亮	V大2 宗 宮 弘 始	
A大3 宮 川 壽 之	C24 井 沢 昭 雄	V大8 荏 屋 晃	家禽畜産学科
A大4 堀 口 洋 一	C24 石 原 一 彦	V大11 柴 田 親	P大17 赤塚(小山)恵美
A大6 富 野 亥之助	C24 土 屋 春 雄	V大19 秋 山 潔	MP3 伊 勢 暉 昭
A大8 戸 田 義 嗣	C24 法 貴 俊 孝		
A大8 橋 本 建 一	C大1 野々村 英 夫	農業工学科	農村工業実科
A大8 山 口 一 男	C大3 青 木 智	E5 廣瀬(室)成一	AT9 丹 羽 貞 雄
A大11 白 橋 国 弘	C大3 遠 藤 由 直	E大7 浅 野 籌 弘	
A大12 小 島 邦 弘	C大7 大 竹 伸 也	E大7 安 達 登	
A大15 村雲(田口)啓爾	C大7 佐々木 精 吾	E大15 二ノ宮 進	
A大33 久保田 重 正	C大10 井 口 琢 郎	E大18 鈴 木 功 將	



寄附金ご協力者

— 令和6年10月1日～令和7年7月31日まで —

40件 661,000 円

若い方からご高齢の方まで、多くの方々から寄附金のご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。そのうち
公開を希望されていない寄附者（9件）につきましては掲載しておりません。（敬称略）

旧教員	【A大6 昭和33】	杉 山 道 雄		【E大24 昭和51】	玉 井 信 之
農学科	【A大9 昭和36】	安 田 直 彦		【E大24 昭和51】	松 永 慈 海
	【A大15 昭和42】	吹 田 忠 純		【E大27 昭和54】	太 田 正 之
	【A大21 昭和48】	杉 浦 世紀子		【E大32 昭和59】	西 村 和 宏
	【A大25 昭和52】	中 條 哲	家禽畜産学科	【P大3 昭和43】	日 高 隆 義
	【A大25 昭和52】	早 川 治 彦			
林学科	【F大29 昭和56】	服 部 晋 也	総合農学科	【N大6 昭和35】	岡 崎 文 孝
農芸化学科	【C大3 昭和30】	小 池 寛 司	生物資源生産学科	【B大11 平成14】	松 尾 幸 治
	【C大15 昭和42】	高 田 智 之	生物資源利用学科	【R大9 平成12】	赤 松 剛
	【C大20 昭和47】	大河内 宜 久			
	【C大25 昭和52】	山 本 和 彦	生産環境科学課程	【A E大4 平成23】 【A E大16 令和5】	千 飯 明日美 富 田 泰 世
獣医学科	【V大6 昭和33】	桐 山 多 禄	団体 (株) アイエスシイ 【E大24 昭和51】 (株) 安理ジャパン 【C大28 昭和55】	森 富 雄 二 村 芳 弘	
	【V大14 昭和41】	井 上 健太郎			
	【V大14 昭和41】	松 本 兼 治			
	【V大16 昭和43】	稲 田 昌 弘			
	【V大68 平成31】	倉 田 嵯 余			
農業工学科	【E7 昭和26】	伊 藤 正 喬	大学職員	伊 田 明 弘	
	【E大11 昭和38】	柴 田 幸 照			

岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金に関する申合せ

- (設置)

第1条 岐阜大学応用生物科学部に受け入れた各務同窓会会員等からの寄附金を原資として、岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金（以下「基金」という。）を置く。

(基金の目的)

第2条 基金は、応用生物科学部及び研究科の教育・研究支援を実施することを目的とする。

(事業の対象)

第3条 基金による事業の対象は、次に掲げるものとする。

一 応用生物科学部等の教育・研究活動及び学生の厚生に対する支援

二 学生の就職活動に関する支援

三 学部紹介に対する支援

四 若手教員育成に対する支援

五 同窓会活動への支援

六 その他の支援

(事業の運用)

第4条 事業の運用に関する事項は、応用生物科学部運営会議の議を経て、応用生物科学部長が行うものとする。

(基金の経理)

第5条 基金は、東海国立大学機構寄附金受入規程（令和2年機構規程第85号）により経理する。
- (事業年度)

第6条 基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(各務同窓会への報告)

第7条 応用生物科学部長は、各事業年度の寄附金受入実績と事業内容を各務同窓会に報告するものとする。

(監査)

第8条 寄附金の受入と使途については、各事業年度ごとに各務同窓会幹事長がこれを監査する。

(雑則)

第9条 この申合せに定めるもののほか、基金に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この申合せは、平成25年4月1日から実施する。

附 則

この申合せは、令和2年4月1日から実施する。

令和6年度 岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金
決算報告書

会計期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

(歳入の部) (単位：円)

項 目	金 額
前年度繰越金	12,444,719
受入寄附金	611,000
合 計	13,055,719 ①

(支出の部)

(単位：円)

項 目		金 額
教育支援	iGEM Gifuへの資金支援 (iGEM（国際合成生物学大会）団体登録費等に使用)	700,000
合 計		700,000 ②

差引残高 12,355,719 円は次年度に繰越
(①－②)

(参考) 各務同窓会寄附金の年次推移

年 度		R03	R04	R05	R06
繰越額		12,925,453	12,737,597	13,043,597	12,444,719
収 入		808,000	306,000	493,000	611,000
支 出	賃 金	0	0	0	0
	旅 費・ 謝 金	0	0	0	0
	物 品	0	0	0	0
	工事・手数料等	0	0	0	0
	奨 学 金	165,000	0	345,000	0
	教 育 支 援	613,948	0	746,878	700,000
	活 動 支 援	216,908	0	0	0
計		995,856	0	1,091,878	700,000
年度末残高		12,737,597	13,043,597	12,444,719	12,355,719

事務局からの連絡

- 令和8年度より、卒業後2年までは全員に会報を送付しますが、それ以降は会費20,000円を納入済の方のみに送付します。入金の有無が分からない方は、同窓会事務局までお問い合わせください。
- 岐阜大学同窓会連合会会長表彰の情報提供をお願いします。教育研究活動において特に顕著な業績を挙げ、本学の名誉を著しく高めたと認められる同窓生、及び社会活動において、社会的に高い評価を受け、本学の名誉を著しく高めたと認められる同窓生が表彰の対象になりますので、会員の皆様から、情報をお寄せいただければ幸いです。



あとかき

同窓会員の皆さまにおかれましては、日頃より同窓会活動に格別のご支援とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

いまだウクライナや中近東地域では戦禍が絶えず、子どもを含む多くの民間人が犠牲となるなど、平和には程遠い状況が続いております。国内に目を向けても、近年の物価上昇に加え、米価の急騰、

いわゆる「令和の米騒動」により、日本人の食の中心である「ごはん」を日々の食卓にのせることさえ困難になりつつあります。備蓄米の放出などさまざまな対策が講じられてはいるものの、先行きは依然として不透明であり、美味しいごはんを心待ちにする消費者のみならず、生産者である米農家にとっても、不安定な状況が続いています。現代の国際情勢を踏まえると、食料安全保障という観点からも大きな課題が顕在化しつつあり、農学を基盤に発展してきた応用生物学部および各務

同窓会の皆さまにとっても、深い関心を寄せざるを得ない問題であると感じております。複雑な要因が絡み合う非常に困難な課題ではありますが、今後も継続して関心を持ち、共に考えていく必要がありますでしょう。

さて、昨年度にお知らせしたとおり、本年度より応用生命化学科、食農生命科学科、生物圏環境学科、および共同獣医学科から構成される新たな教育体制がスタートいたしました。改組後の3学科においては志願倍率も上昇し、幸先の良い船出となりました。生命・食料・環境をめぐる課題は非常に多岐にわたり複雑ですが、これらの課題解決に向けて、高度な専門職業人材の育成を目指し、学部教員が一丸となつて教育・研究に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご理解と、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(酒井洋樹)

寄附金のお願いについて

平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました1ヶ月程あとに、岐阜大学（研究推進部）より、振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

詳しくはこちらを確認してください。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第106号

令和7年9月29日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

TEL (058) 293-3411 FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/>

e-mail ob-abs@t.gifu-u.ac.jp

(メールアドレスが変更になりました)

【申込書】

別紙様式1号（第3条関係）

国立大学法人東海国立大学機構 機構長 殿

寄附者 住所 〒 -

ふりがな 氏 名

寄附金として寄附します

記

寄附金額 金 円

寄附目的 (該当するものの左側に○をしてください。)

学術研究助成

研究担当者氏名又は 学科・講座名など

研究課題名 (ある場合)

学生（教育）支援 部局名：

○ 大学（部局）支援 部局名：岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金

その他（右に具体的に記入ください。） 部局名：

備考

についてご記入ください。

卒 科

卒 回（卒年） 第 回（昭和・平成・令和 年 卒・修）

同窓会報への氏名掲載を希望されない場合はチェックをお願いします。

注）備考欄には、条件（簡単な研究報告が必要など）、分割納付の必要などがあれば記入してください。
2. 研究助成金の場合、決定通知等を添付してください。

納入依頼書 送付先住所：

送付先情報（企業、団体などの場合） 担当部署：

担当者名：

電話番号・E-mail：

備考欄も記入してください。